

新入医局員からのメッセージ（2020年度）

高橋 健太 先生

今年度より岩手医科大学泌尿器科に入局させていただき、高橋健太と申します。

私は岩手医科大学出身で、学生のころは泌尿器という学問に対してはあまり興味がありませんでした。しかし、泌尿器の先生たちの人柄や医療に対する姿勢に惹かれ、気付いたら学生時代の実習の時間の多くを泌尿器で過ごしておりました。

岩手県立久慈病院での研修中に泌尿器科をローテートした際には、学生としてではなく一人の医師として泌尿器科を経験することができました。そのときに泌尿器科の診療範囲の広さや、学問としての奥深さを身をもって体感することができ、是非とも泌尿器科の道に進みたいと考えるようになっていました。

学生・研修医の皆様は、泌尿器という学問に興味がなくとも是非一度泌尿器をまわって体験してみることをお勧めします。やさしく、指導熱心な先生方が多いため、今後の医師人生においてとても為になると思います。あわよくば一緒に仕事ができたらうれしく思います。

私に関しては、2020年度より久慈病院にて勤務となりますので、研修に来た際には気軽に声を掛けてください。飲みに行きましょう！！



山口 剛史 先生

この度、岩手医科大学泌尿器科学講座に入局させて頂いた山口と申します。私は2016年に岩手医科大学を卒業し、2年間の初期研修の後、山形県立中央病院麻酔科に2年間勤務しておりました。そして、この度泌尿器科を専攻致しました。

医学生時代に泌尿器科を回った際に、手術や化学療法、透析、腎移植などを学び、泌尿器科の守備範囲の広さを実感致しました。また、腎臓や膀胱、前立腺、生殖器など多彩な臓器を扱うことも学びました。

実習期間中は、大学病院での実習に加え、都市部の市中病院や地域の病院での実習をさせて頂き、泌尿器科がどの医療施設、どの地域においても重要な役割を担っていることを実感致しました。

私自身は初期研修後、麻酔科で2年間研修し、手技や周術期の全身管理を習得致しました。この経験を生かして泌尿器科で頑張っていきたいと思っております。

今後の進路が決まりかけている方も、全く決まっていない方も、泌尿器科を選択肢に入れておくことをおすすめします。必ず活躍できるフィールドが待っているはずです。お待ちしております。